

北薩の輝き

良質な教育環境づくりを推進する北薩の教育

コミュニケーション

管理課長 三上 修

私事になりますが、現在、完治をすることのない病気で母が入院しています。看病（介護）自体は、病院をお願いをしていますが、高齢で難聴の父は、毎日、母のもとへ行って母を見舞っています。病気のため、私でもなかなか聞き取れないぐらいにしか言葉を話せない母と難聴の父が毎日顔を合わせコミュニケーションをとっています。私がいる時は、私が通訳をしているような状況ですが、私がいなくて二人きりの時も100%ではないかもしれませんがコミュニケーションがとれているのです。「アイコンタクト」なのか「身振り・手振り」なのか。相手の発信したメッセージを受ける時には、発信者の気持ちをくみ取る事が大切だと感じました。

私たちは、みんな生きていく以上、日常の各場面において、常に誰かとの意思疎通を図りながら暮らしています。しかし、しばしば思うように自分の思いを伝えることができずに誤解が生じたり、不用意な発言によって相手を傷つけてしまったりと、物事がよからぬ方向に進んでしまうことがあります。余計な一言で、または、たった一言を言えなかったことで、後々、大きな後悔につながった苦い経験は誰もががしていることなのでしょう。

親しい間柄、初対面の相手、好きな人、苦手な人、上司、部下、会話の相手は様々ですから、立場や状況によって言葉を使い分ける必要があります。みんなと上手くコミュニケーションをとることは、非常に難しいことです。

それではうまく自分の気持ちを伝えるにはどうしたらよいのでしょうか？その答えが簡単に出せるのであれば苦労はしません。ただ、私が日頃感じていることは、言葉に「誠実さ」や「相手を思いやる気持ち」を感じられることが大事なのではと思います。一見、他愛もない言葉のやり取りや身振りであっても実は気がつかないうちに、なくてはならない潤滑油のような役割を果たしていることがあります。もちろん、私自身も、つい言ってしまったり、きちんと自分の思いを伝えられなかったりすることばかりです。感謝の気持ちを忘れずに、やさしい言葉を使えるようになりたいです。

主体的・対話的で深い学び

〔出水市立大川内中学校〕

言語活動を充実させながら、問題発見解決力・創造力、論理的・批判的思考力、メタ認知力等の育成を図るために、次のようなことに取り組んでいます

自考、交流、発表、再考の過程を位置付けた授業展開



操作活動による対話的な学び

授業では、言葉、式、図、表、グラフ等を用いてホワイトボードに自分の考えをまとめさせています。自分の考えの説明後、再考させることで、論理的・批判的思考力を高めています。

生徒が考えたい学習課題、中心発問、ペア・グループでの交流、振り返りを意識した授業の在り方に取り組んできました。

その結果、「分かった」という生徒の声が増え、全国学力・学習状況調査では、国語、理科が全国平均を大きく上回りました。

学力向上タイムの実施（毎月2時間程度）



考えの発表の様子

各種検査の結果を踏まえ、定着が不十分な単元の補充指導を行います。話し合わせながら活用問題に取り組みさせることで、問題発見解決力を高め、できた達成感を味わわせています。

〈教育事務所から〉

「教師は、付かず、離れず、しゃべり過ぎず、いかに関わるか」を指導上の留意点として、大中スタンダード授業の構築を組織で研究しています。生徒に力が付いていることが、諸学力調査からも伺えます。

平成30年度 全国学力・学習状況調査結果から (本地区)

小学校(6年)の平均正答率 [%]

| | 地区 | 県 | 全国 | 県との差 | 全国との差 |
|-----|----|----|----|------|-------|
| 国語A | 68 | 70 | 71 | -2 | -3 |
| 国語B | 51 | 53 | 55 | -2 | -4 |
| 算数A | 63 | 64 | 64 | -1 | -1 |
| 算数B | 46 | 49 | 52 | -3 | -6 |
| 理科 | 57 | 59 | 60 | -2 | -3 |

【児童質問紙】授業に関すること [%]

| | 地区 | 県 | 全国 | 県との差 | 全国との差 |
|--|------|------|------|------|-------|
| 5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか | 74.7 | 75.6 | 76.7 | -0.9 | -2.0 |
| 5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、語の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか | 58.3 | 57.3 | 61.0 | 1.0 | -2.7 |
| 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか | 77.3 | 77.3 | 77.7 | 0 | -0.4 |

中学校(3年)の平均正答率 [%]

| | 地区 | 県 | 全国 | 県との差 | 全国との差 |
|-----|----|----|----|------|-------|
| 国語A | 74 | 75 | 76 | -1 | -2 |
| 国語B | 58 | 58 | 61 | 0 | -3 |
| 数学A | 64 | 64 | 66 | 0 | -2 |
| 数学B | 43 | 45 | 47 | -2 | -4 |
| 理科 | 63 | 65 | 66 | -2 | -3 |

【生徒質問紙】授業に関すること [%]

| | 地区 | 県 | 全国 | 県との差 | 全国との差 |
|--|------|------|------|------|-------|
| 1, 2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか | 71.9 | 72.4 | 73.8 | -0.5 | -1.9 |
| 1, 2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、語の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか | 45.3 | 46.7 | 53.8 | -1.4 | -8.5 |
| 生徒の間に話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか | 76.9 | 76.9 | 76.3 | 0 | 0.6 |

※ 地区、県、全国の数値は、「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」に回答した児童生徒の割合を示してある。

小学校：国語B、算数Bは県、全国との差が大きい。「自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、語の組み立てなどを工夫して発表している」の項目が県を上回っている。中学校：数学Bは全国との差が大きい。「話し合う活動を通じて、考えを深めたり、広げたりできている」の項目が全国を上回っている。

お知らせ

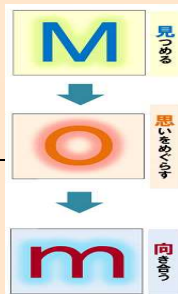
11月13日(火) 文部科学省 国立教育政策研究所 総括研究官 中野 澄 氏を講師に招聘して、「北薩地区不登校対策特別講演会」を開催します。

11月16日(金) 「北薩地区オープンサポート教科フォーラム」を開催します。鹿児島県教育庁義務教育課 山本 悟 課長に講評・講話をいただきます。

◇いずれの会とも、案内の公文は発行済みです。多くの先生方の申込みをお待ちしています。

子どもと向き合う教職員の基本姿勢

- M: 子どもたちのありのままを「見つめる」
- O: 気になった子どもの背景に「思いをめぐらす」
- m: 見えてきた課題と「向き合う」



学校で子どもたちが最も多くの時間を過ごす場所は教室であり、学級の基盤は確かな人間関係です。

【Mom! 学級づくり連続講座】

県人権同和教育課が、北薩地区の教職員を対象に、全7回の連続講座を実施しています。子どもたちと進める学級づくりや学力・体力を高め合う学級づくりなど、受講者の学級づくりをサポートしています。

Mom! とともに、子どもとの信頼関係、教職員同士のつながりを構築していきましょう。



ふるさとの文化を伝える

管内の多くの学校では、学校行事や総合的な学習の時間などに、郷土芸能や伝統行事などの身近な文化財の活用が図られています。



【三笠中 山田楽】

阿久根市立三笠中学校では、山田楽の伝承活動に取り組んでいます。山田楽保存会の方々には、実技指導はもとより、飾り等の作成の指導にも協力をいただいています。総合的な学習の時間に練習に取り組み、今年も体育大会で披露しました。三笠中校区の折多小の6年生は、脇本小へ行っの合同練習会が開催されるなど、地域に根付いた伝承活動になっています。

交通事故・違反があったら、速やかな報告を

万が一、交通事故・違反を起こしてしまったら、気持ちが動転すると思います。そのような時こそ落ち着いて、自分・相手・同乗者等の安全を確保したり、警察・消防へ通報したりした後、速やかに所属長へ報告してください。

もし所属長への報告を行わなかった場合は「報告懈怠」となり、一般的な処分等より重い処分となることがあります【平成22年12月10日付け「交通法令違反及び交通事故に係る報告について(通知)」】。

なお、交通事故・違反を起こした場合、過去5年間の違反歴等が記載された自動車安全運転センター発行の「運転記録証明書」の提出が求められます。その際に「報告懈怠」が発覚し、処分が重くなるケースも見られますので、十分に注意してください。



良質な教育環境づくりへのアドバイス③

平成30年度合同計画訪問では、NRT等の諸調査結果の経年変化を職員で共通理解し、教育課程に課題を朱書きしたり、授業改善を行ったり、靴等のかかとりや棚の靴等を揃えたりした取組を参観し、改めて全職員による共通実践が大切なことを感じることでした。

編集後記

学級や学校の課題解決について、工夫して取り組まれていると思います。書くことによって、自身の実践を振り返ったり、解決への手立に気付いたりできますので、それらの実践を研究論文等にまとめてみませんか。